第51回定例総会に全会員の出席を呼びかけます

日時：3月26日（日）午前8時45分開会　8：30～受付

場所：山岳総合センター会議室

日程　8：45～10：45　総会

11：00～12：00すぎ　講演

「鹿島槍カクネ里の氷河について‥‥3年間の調査から」

講師：大町山岳博物館指導員　西田均氏

プロフィールは次のページ

※　会員外もお誘いしましょう

前日山行と懇親会25日（土）

雨引山　　集合：９時　すずむし荘Ｐ

2時頃下山し、温泉入浴＆買い出し

懇親会；18時～　山岳総合センター食堂

「大町労山の今とこれからを大いに語り合う」

・飲食代実費は参加者で集金
・宿泊は山岳総合センター（宿泊代1700円ですが、700円を会から補助）
・朝食は各自用意

総会関連日程は、何ヶ月も前に例会で協議して決定し、これまでの機関紙でお伝えしています。大町市・松川村では地域の行事等と重なっているようですが、可能な限り前夜の懇親会から参加して交流を深め、今後の大町労山を大いに語り合い、総会を盛り上げようというのが狙いです。

地域の行事には翌朝参加する等して、できるだけ総会に間に合わせてください。

①前日山行　②懇親会　③宿泊　④総会・講演会の４つの項目別に、会長、または事務局長に必ず連絡してください。前日山行は計画書の関係、懇親会は食材準備等で把握しなければなりません。

プロフィール　大町山岳博物館指導員（人文科学）　西田均氏

大町市役所を退職し、今春から非常勤の指導員という職名で山岳を中心とした資料の収集整理や「お掃除おじさん？」として山博のスタッフとなりました。

一代目、二代目の昔の山博も知っている古～い世代です。

まだ、見習い状態のところもあり毎日が「アレヨ、アレヨ」の内に過ぎて行きますが、もう少ししたら、山岳資料の整理や収集等の学芸員的な仕事でお手伝いが出来るはずと期待しています。（山博HPより）

県山岳協会副会長・大町山の会副会長／日本ヒマラヤ協会会員／日体協公認山岳上級指導員／日山協自然保護指導員

2～3月の例会報告(抜粋)　※例会後の活動を含む

1；2月26日～3月20日の山行・行事報告

① 2月26日（日）　黒沢尾根；古畑文子・細田・尾形・谷口・宮島・鈴木・森田
② 3月 4日（土）　野麦峠スキー場（奈川）から鉢盛山：古畑文子・細田・尾形・鈴木
③ 3月 5日（日）　県連総会；尾形・横田・小山・谷口・鈴木
同日、伊藤正一さんを偲ぶ会：尾形・勝野

2；今後の山行・行事等

① 3月11日（土）～12日（日）　石尊稜：鈴木＋県連有志２名
② 3月19日（日）　上州武尊山：宮島・細田・鶴川栄子・鈴木
③ 3月21日（火）　第23回例会
④ 3月25日（土）　雨引山
⑤ 3月26日（日）　第51回定例総会；山岳総合センター
⑥ 4月　2日（日）　角田山
⑦ 4月 4日（火）　第1回例会

野麦峠スキー場から鉢盛山へ

報告者；細田　　参加者；尾形　鈴木　古畑文

3月4日（土）天気 晴れ

8時半のリフト開始時間に合わせ、各戸を回って、私の待ち合わせ場所である、波田の体育館に迎えに来ていただいたのは7時 20 分。昨日からの天気予報は晴れで、楽しみな一日になりそうだ。鈴木さんの車は、スキーにスノーシューと満杯状態だ。

トンネルを過ぎ、渋沢温泉を過ぎると8時頃にはスキー場に到着。リフトはまだ動いていないが、それなりにお客さんが来ている。鉢盛山と言えば、里山のような気がして呑気に構えていたが、2,447 メートルもあるではないか。先日慌てて気温のチェックをした。これは寒いだろうと、万全の寒さ対策をする。

前回、リュックにスノーシューを付ける便利グッズを宮島さんに教えていただいた。今回は購入して使ってみる。良いですね。回数券を購入する頃には、リフトが動き始める。ロングリフト二本分、計1,500円。

9時リフトトップへ降り立つ。御嶽山、乗鞍岳が美しい山容を見せてくれる。穏やかだった駐車場とは随分と温度差があり、風があって寒く、慌ててフードを被る。鉢盛山への表示が出ていないが、少しゲレンデを下った所から樹林帯に入る。最初はつぼ足で進む。もぐってしまうので、それぞれスノーシュー、わかんを装着。古畑さんは、久々のわかんということでしたが、結びもしっかり手際よく、装着完了。ピンクの目印とトレースを頼りに進む。

アップダウンがあり、なかなか歩きごたえがある。10時20分、陽だまりを見つけて休憩。展望があまり望めないが、所々望む乗鞍岳は、いつも松本から見る、山間に真っ白な部分だけを覗かせている山容とは違い雄大だ。

鉢盛山の頂上には電波反射板がよく見える。登りがきつい。やっと小鉢盛山に着く頃には、11時45分になっていた。休憩後、ここから鉢盛山往復には4時間位掛かるので、山頂トライはやめて、小鉢盛りから下りになる所まで行って引き返すことになった（コルまで180メートル下って250メートル登り返しがある）。

暖かそうな場所で、それぞれに昼食を摂る。ひょっこり若い男性が一人で、鉢盛山方面から下ってくる。聞くと朝6時頃、駐車場を出発されたとか。雪の状態、往復時間を考えると、その位に登り始めないと日帰りは大変のようだ。後で気がついたが、この方は、ずーとつぼ足のようだった（体力ある、若い）。帰りは、来たルートを辿る。

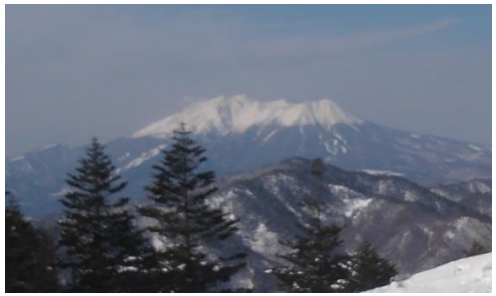
登り返しの所で、「こんな急な所、通ったかな？」すかさず尾形さんに「戻って、違うルート探す？」と言われ、「無理無理、すみませんでした。間違いございません」（笑）などと言いつつ、リフトトップに到着したのは、14時55分頃。これからは、リフト2基分の下り。林の中の傾斜が良さそうな所は、お尻ソリで降りたが、ゲレンデも端の方で距離を稼がせていただく。

15時半頃、2基目のクワットリフト到着。無料で乗せてくれると聞いていたのでお願いしてリフトに乗車。標高差があるので下りリフトは中々スリル満点。

日帰りで、登頂する方もいたが、雪の状態と、体力が必要だと思う。頂上は見晴らしが良いとのことなので、雪のない時期にも挑戦してみたい。

天気も良く乗鞍の勇姿も見られたので、満足の山行でした。

朝通って来た、渋沢温泉 ウッディ・もっくで、疲れを癒して帰路に着いた。皆様、お疲れ様でした。　　いくババ



第95回**県連登山学校（地図読み講習会Ⅰ）**

4月23日（日）

●目的：コンパスの使い方、地形図の読み方などの基本操作を学び、道迷いを防ぐ

●場所：大洞山（おおぼらやま　1093m）

大町市・松川村の境　安曇沓掛駅の西 3Km

地元の山です。積極的に参加希望してください。

黒沢尾根・天狗尾根

記録者；尾形昌昭　　参加者；尾形　古畑文　鈴木　谷口　細田　宮島

先月の県連・冬の交流山行(入笠山)に続き、今回の黒沢尾根スキーハイクも天候に恵まれ、風もほとんどなく、快適に冬山を楽しめた。

9時に鹿島槍プラザ集合であったが、私は少し前に行き、スキーを30分ほど楽しんでから合流した。

久しぶりに森田さんもいて、一緒のパーティかと思ったら、別のパーティ(仕事でかんじきハイクのガイド)とのこと。森田さんは、私のスキーウェアーをしげしげと見て、『古いウェアーですネェ‥』と。そうです。私は30年も前の古い昭和スキーヤーです。それにしても森田さんに言われると心が折れる‥‥。

スキー場最上部、第10リフトを降り、黒沢尾根出発の準備をしていると、今度は宮島さんから『そのヤッケ？、40年も前のナイロンダブルヤッケ‥。懐かしい』と。そうです。私は時代遅れの昭和登山者です。

みんなにからかわれながら9:50出発。意外に雪が締まっていて新雪も少なく、快適に尾根まで登る。

眼下に青木湖、北東方面には北信の山々が見える。東側の雪庇に気をつけ、小ピークまで登る。途中、ニュージーランドから来たバックカントリーツアーの人達と一緒になり、二言、三言、言葉を交わす。しっかりした日本語で返事が来た。ガイドは白馬村落倉在住とのこと。

12：25昼食。本当に風もなくポカポカと2月の冬山とは思えない中、カップ麺を食べる。

食後、展望のよさそうな小ピークまで登る。1600m以上はあると思える。北に小遠見まで続く天狗尾根、雨飾山，東に戸隠、菅平、浅間の山々を望めるが、西側の後立山は雲で見えない。この距離からの鹿島槍は間近に迫り圧巻だと思う。残念だった。

下山途中、女性陣を中心に30分の滑落停止訓練。帰りはスキー場上部から鈴木さんと私はスキーで降りたが、他の4人は徒歩でゲレンデ急斜面を降りたので大変だったようです。

お疲れさまでした。

栂池自然園へ　　3月5日　　じゅんちゃ

3月5日（日）栂池のゴンドラ乗り場は多くのスノーボードやスキー客でごったがえしていた。そうは言っても、若い頃に比べれば比較にならない。

栂の森駅で降りスノーシューを履き栂の森を抜け栂池自然園を目指す。

今日から栂の森から上の栂池自然園までロープウエーが営業開始である。何度も来ている栂池自然園であるが、ここから見える白馬岳、杓子岳、鹿島槍ケ岳は格別である。天狗原や栂池自然奥を目指すスノーボードやスキーを楽しむ方が遠望できる。十分楽しんだ後、すがすがしい汗をかき家路についた。

吹雪の上州武尊山（2158m）　3 月 19 日

記録者；鶴川栄子　　参加者；鈴木　鶴川　細田　宮島

朝、松川道の駅を 4 時 40 分に出発、田淵記念館で宮島さん、細田さんと合流。鈴木車で一路沼田 IC まで向かう。関越道藤岡 Jct から 3 車線の道路が一時渋滞に巻き込まれたが沼田 IC に着く頃には解消された。

川場村に入ったらフロントガラスに雨粒が‥。今日って晴れマークのはずなのに。でも細田さんは現地情報をチエックしていて、天気予報が C マークだったという。川場スキー場に近くなるにしたがって雨がみぞれに、そのうちに大粒の雪に変わり、『何だこりゃ～』, 一転して冬の世界になってしまった。スキー場の駐車場は斜面を利用して 6 階建てのビル屋根下に駐車でき、それは良かったのだが‥。

リフト券売り場では、登山者専用のインフォメーションがあり、登山届はしっかりとチエックされる。L - 鈴木さんは随分と迷っているが‥。他の 3 人は中止したい気持ちが大。下でこの天気、風もある。当然、標高を増すにつれて吹雪いていることが想像される。視界の効かない所を歩いても全然楽しくないし、景色も見えない。

でもです、リーダー鈴木さんは違った!!　少しでも前進したい、剣が峰まで行こうと結論を下す。鈴木さんがそう言うならと従うことに。リフト券を購入して驚いた。カードには個人名が入って、登山者用となっており、スキーヤーと区別してある。

リフト 2 基を乗り継ぎ終点に着いた。当然視界はきかないし、風もある。アイゼンを装着し、スキーをデポして出発。時間は 10 時 50 分を過ぎていた。深雪で急斜面、歩きづらい。しかしながら、我々のパーティと同じ考えの人たちが何組かいたことに感心する。また、何組がこの天候の中で山頂まで辿り着けたのだろうか？

あるパーティは 800m手前で、低体温症になりそうだから引き返しましたという。私たちはまだ 30 分位しか歩いていない。ある程度登り、緩斜面になった所で鈴木さんの判断が下された。剣が峰まで 60m手前というが視界が聞かず、吹雪いていて先に歩いた人のアイゼン跡もかき消されている。行ってもしゃあないやろ‥‥。

心の中でその言葉を待っていた。引き返すにあたり、ストックからピッケルに持ち変えるその作業に、3 重に嵌めている手袋が邪魔になったため私は意外と時間がかかった。

斜面が急な分下りはあっという間に。往復 1 時間の雪山登山だった。でも凝縮した貴重な体験をしたと思う。アイゼンで深雪の中を歩いたこと。吹雪の雪中登山はこうなんだという実体験をしたこと。決して諦めなかった鈴木さんに感謝です。

宮島さん、細田さんはリフトで下り、鈴木さんと私はスキーで下った。

14 時過ぎにスキー場を後にして、腹ごしらえ～田園プラザ川場で群馬名物の幅広のうどん鍋を食べる。帰りは下道で鳥居峠から上田に抜けて帰ってきた。途中、上田のささらの湯に入って松川着 21 時 20 分でした。

リーダーとして　　鈴木　均

今回の武尊山山行は 2 月実施予定だったが悪天予報のために延期したもの。3 連休の中日（なかび）は天気がもっとも良さそうだった。だが、連休初日午後から少しずつ予報と違ってきた（当日の様子は鶴川さんレポの通り）。

朝の高速道路をとばして、ほぼ予定通りに川場スキー場に着いたが、3 人のモチベーションはどうも上がっていない。ゲレンデに出ると風も強い。スキーをやらない二人に少し待ってもらって、1 本だけ滑ることも考えたが、それもつまらない。きょうの目的は登山である。

インフォメーションでこの地のベテランと思われる方にいろいろ情報を教えてもらう。視界は悪いが雪庇に気をつけながら剣が峰まで行って引き返すと決断。3 人にその旨伝える。

宮島さんをトップに、女性二人を挟んで私がラスト。厳冬期と違い、3 月中旬の雪山はこんなものだとわかっているので前に進む。登山者は多い。多くは途中から引き返した感じだ。

結果的に剣が峰に行くまでに引き返した最大の理由は、ルート上のトレースである。吹雪状態であるが雪はほとんど降っていないため、トレースが消えることはないと思われたが、浅いトレースは風で見えなくなることも考えられた。竹と赤布を持ってきていれば要所々々に刺して問題がなかったが、木に結ばれた小さな赤テープは視界が悪いために見えづらかった。そのため、剣が峰まであと 10～15 分と思われる地点でターンした。

スタート時に、全員でもう少し詳細にルートと状況判断を協議し、確認してから行くべきだったと反省している。初めてのルートで視界は 10m程度だったので、樹林がなければ山酔いすることもあり得たし、薄着なら低体温症にもなりかねなかったが、早い撤退で、みなさんはよい経験ができたのではないかと言い訳をしている。自己満足だけの山はよくない。

南鷹狩山・北と南から‥　　木偶野呂爺

3月3日　北西（伐採跡地）斜面から

南鷹狩山北西面の広大な伐採地に雪がべったりついているのが大町市内からよく見える。その斜面を登るのが今日の課題。一昨日は長靴・ツボ足・スパッツ無しで雪の少ない南側から登り、靴の中を濡らしてしまうと言う羽目になったが、今回は雪が多いのが分かっているので万全の装備で臨む。とは言ってもワカンは持って歩くだけでつけるほどではない。

北西面の伐採地に取りつくには、麓から林道を辿るルートは別として、山の子村まで鷹狩小道を登り、そこから眼下の谷に下って伐採地の最下部に至るか、山の子村から林道までまっすぐに上がり、林道を詰めて大きく迂回しながら、伐採地の中間を横切る林道まで歩くかである。

山博発11時。いつもとは違う林道をあちこち歩いて、12時丁度に山の子村の先、北西斜面が目の前に見える地点に着く。そこから鷹狩側の伐採地の上端を登る。こちら側には雪が全くなくてポカポカである。南鷹狩山の方から見ると、すり鉢の縁を歩く感じになるその道を登って鷹狩林道に至り、南進して 12：30 にその先の分岐点に着き、今度は90度右折して林道を西に進む。。

分岐点からのその林道は左手が急斜面で随所に小規模のデブリが見られる気持ちの悪い道である。幸い雪が締まってその心配はないが、一刻も早く日当たりのいい場所へと急ぎ、10 分で中間の林道に着く。ここから伐採跡地を登るのであるが、何もない剥き出しの斜面を登るのは何となく嫌で、伐採地との境界の少し内寄りの雑木林を登ることにする。

樹影～鷹狩径小径

南鷹狩山北西伐採跡地

陽春

急傾斜である。体力の低下が著しく果たして登れるのだろうか，と自信はない。やめてしまいたい気持ち半分、取り敢えず行って見ようか～が半分で、決して不退転の決意で登っている訳ではないが、この斜面を登り切ることが当面の試練のような気がしていた。ここで止めたらその先はないだろうと言う若干の悲壮感も‥。

雪はよく締まっていてピッケルが小気味よく効く。時々股下まで埋まることもあるがほぼ膝上くらいのラッセルで、思いのほか登れている。ここ1ヶ月間のトレーニングの効果が出ている気がした。その思うことで自らを鼓舞する。

カモシカの足跡が深くて大きく、人が歩いたのかと見まがうほどである。左手後方に鷹狩山の展望台が見えており、それが自分の高度を教えてくれていた。予想以上に体が動き、心肺機能もかつてなく好調でカモシカの足跡を追って行くうちに心もち傾斜がゆるくなり、前方に空が見え始めて、40分で伐採地の上端に出る。

今回も快晴で最高の景観を堪能した後、南鷹狩山に向かう。一昨日歩いた自分の足跡を辿って中間地点まで行ったが、下山後の所用が気になって途中で引き返す。

下りは先刻の林道を通りたくないので、林道の分岐点辺りを目指し、なるべく急な斜面を選んで適当に下る。これだけの傾斜なので尻セードで一気に行けると目論んだのだが、雪が締まっていて思うほど滑らず、大股で歩いてズンズン下る。

左下に1時間前の足跡を見ながら林道のほぼ真上の小尾根を下って、20分でカーブミラーのある分岐点着（14時）。そこからは林道－鷹狩小道経由，40分で山博に着き終了。ちょっとだけ自信を得た。

3月1日　唐花見湿原から

2月27日に鷹狩小径を東側から登るコースを初めて知り、帰りに唐花見湿原によった時に、南鷹狩山を見な南側から登ってみようと思いついた。

湿原の駐車場からほんの100mほどで尾根に出る。あまり歩かれることのないコースで標高は低いが、東山丘陵の稜線を行くので西側にアルプス、東側に聖高原や四阿屋山を見ながら歩くことができる。ふり返れば美ヶ原方面から遠くは南アルプスも望める悪くないコースだ。

軽いトレーニングのつもりで、雪があまりない南面から雪深い山頂～北面に向かったため失敗した。膝上までの雪で長靴の中に雪が入り、足を濡らしてしまった。 雪深い林道を必死に飛ばしてアスファルト道路に出てもしばらくは足が痺れていた。軽率だった。

気温がもう少し低かったら凍傷は免れなかったかもしれないと厳しく反省。

二十四節気　啓蟄　3月5日 ～(旧暦2月8日)～ 太陽視黄経 345 度

啓蟄や鍬打つ土に動くもの　姉歯義ひろ

春雨や土の笑いも野に余り　加賀千代女　　いかなごの釘煮あしたもあさつても

『陽気地中にうごき、ちぢまる虫、穴をひらき出れば也』暦便覧

冬眠をしていた虫が穴から出てくる頃という意味。実際に虫が活動を始めるのはもう少し先。柳の若芽が芽吹き蕗のとうの花が咲く頃である。

第7候（啓蟄初候）蟄虫啓戸‥すごもり　むしとをひらく　3月5日~

土中で冬眠をしていた虫たちが、暖かい春の日差しの下に出てき始める頃。虫とは言うが、冬眠から目覚め始めるすべての生き物のことを表す。

第8候（啓蟄次候）桃始笑‥もも　はじめてさく　3月10日～

桃のつぼみが開き、花が咲き始める頃。昔は“咲く”という言葉を“笑う”と表現したそうで、ゆっくりと開いていく桃の花をほほ笑んでいるように見立てたもの。

第9候（啓蟄末候）菜虫化蝶‥なむし　ちょうとなる　3月15日～

アオムシがモンシロチョウになる頃。菜の花が咲いて正に春本番

はなのののののはなはなのななあになずななのはななもないのばな

谷川俊太郎

3月の甘納豆のうふふふふ　坪内稔典

二十四節気　春分　3月20日～(旧暦2月23日)　大陽黄経 0 度

『日天の中を行て昼夜等分の時也』暦便覧

この日をはさんで前後7日間が彼岸。花冷えや寒の戻りがあり、暖かいと言っても油断は禁物。昼夜の長さがほぼ同じ頃であり、この後は昼の時間が長くなって行く

第10候（春分初候）雀始巣‥すずめはじめてすくう　3月20日～

雀が巣を作り始める頃。昼の時間が少しずつ伸び、多くの小鳥たちが繁殖期を迎える。

追ふ雀追はるる雀さくら時　　たんぽぽ
子雀の　への字の口や　飛び去れり　　川崎　展宏

第11候（春分次候）桜始開‥さくらはじめてひらく　3月25日～

桜の花が咲き始める頃。桜前線の北上を日本中が待ち望む、お花見の季節の到来!!

さまざまの　こと思ひ出す　桜かな　　松尾芭蕉
薄紅に　葉はいち早く燃え出でて　咲かむとすなり　山さくら花　　若山牧水

第12候（春分末候）雷乃発声‥かみなりすなわちこえをはっす　3月30日～

春の訪れを告げる雷が鳴り始める頃。『春雷』は「虫出しの雷」とも呼ばれている。

春雷の　一発大き　それっきり　　恋ポッと ほうれん草の根のところ
春雷に　途切れし夢の繋がらず　　夫愛す ほうれん草の紅愛す